

# 大山町人口動向分析及び将来人口推計

## 【概要版】



平成27年 8月

大山町地方創生本部

# 大山町人口動向分析及び将来人口推計

## 1. 大山町の人口動向

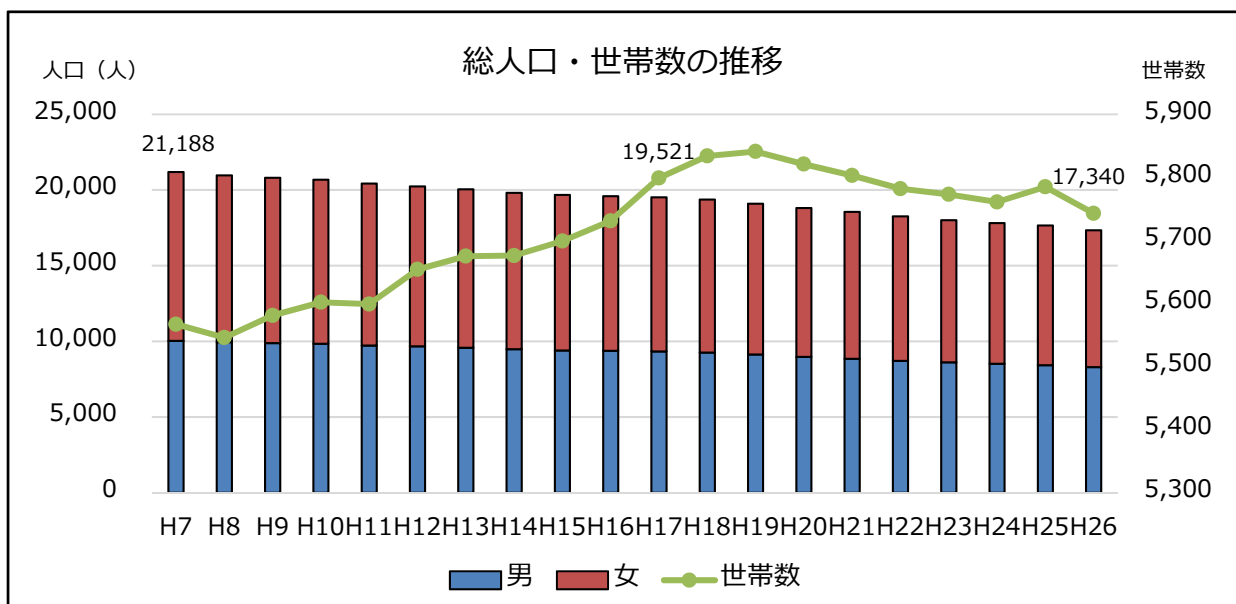
今後講ずべき施策の検討材料とするため、総務省統計局に掲載されている平成7年から現在に至る20年間の人口の推移を把握し、自然増減（出生と死亡による差により生じる増減）の要因と社会増減（転入と転出の差により生じる増減）の要因について、それぞれがどのように影響してきたか等を分析する。

なお、ここで使用している数値は、「人口動態調査（市区町村別）」の住民基本台帳人口・世帯数（各年3月31日現在数値。）を活用し、合併前の平成16年度以前の数値は、旧大山町、旧名和町、旧中山町を合算した数値を使用している。

### ■ 平成7年から平成26年までの人口・世帯数の推移

	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人口	21,188	20,969	20,806	20,682	20,422	20,237	20,050	19,811	19,672	19,591
男	10,030	9,949	9,882	9,843	9,724	9,666	9,580	9,481	9,396	9,379
女	11,158	11,020	10,924	10,839	10,698	10,571	10,470	10,330	10,276	10,212
世帯数	5,567	5,546	5,581	5,602	5,599	5,654	5,675	5,676	5,699	5,731

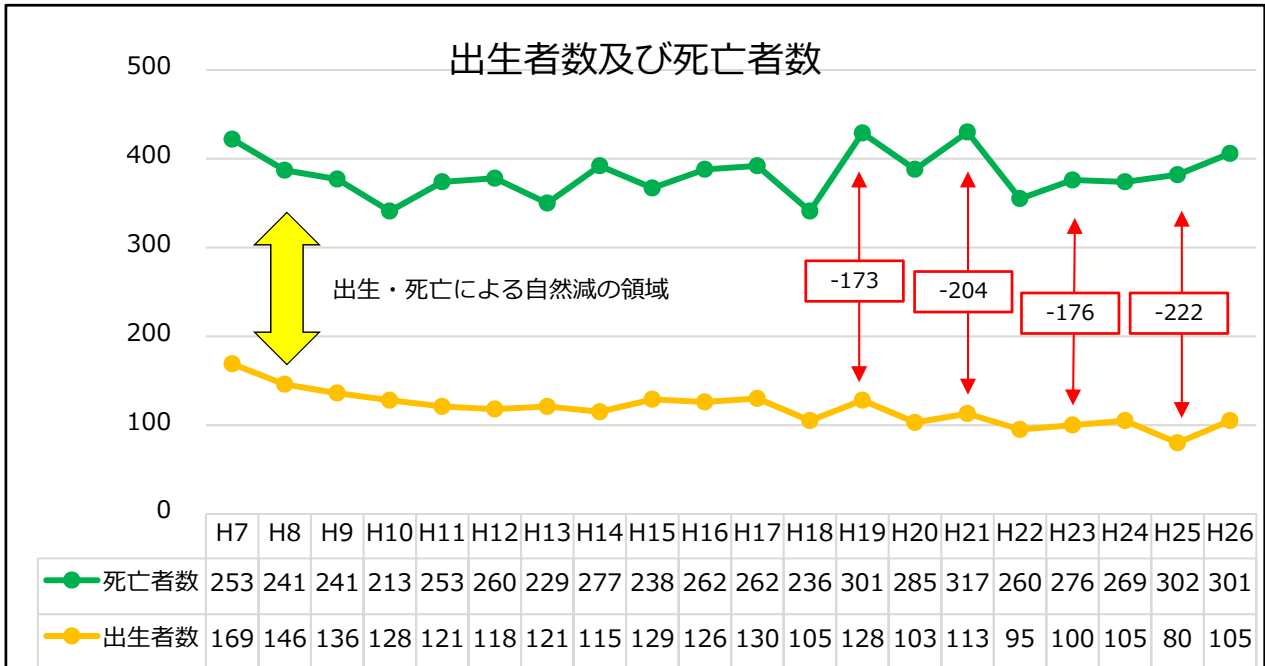
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人口	19,521	19,368	19,098	18,810	18,557	18,253	18,005	17,818	17,655	17,340
男	9,328	9,259	9,127	8,976	8,846	8,704	8,608	8,521	8,425	8,296
女	10,193	10,109	9,971	9,834	9,711	9,549	9,397	9,297	9,230	9,044
世帯数	5,799	5,834	5,841	5,821	5,803	5,782	5,773	5,761	5,785	5,743



平成7年から平成26年の20年間では、男性、女性とも人口が増加した年はなかった。この20年間で大山町の人口は、男性1,734人、女性2,114人、合計3,848人減少した。

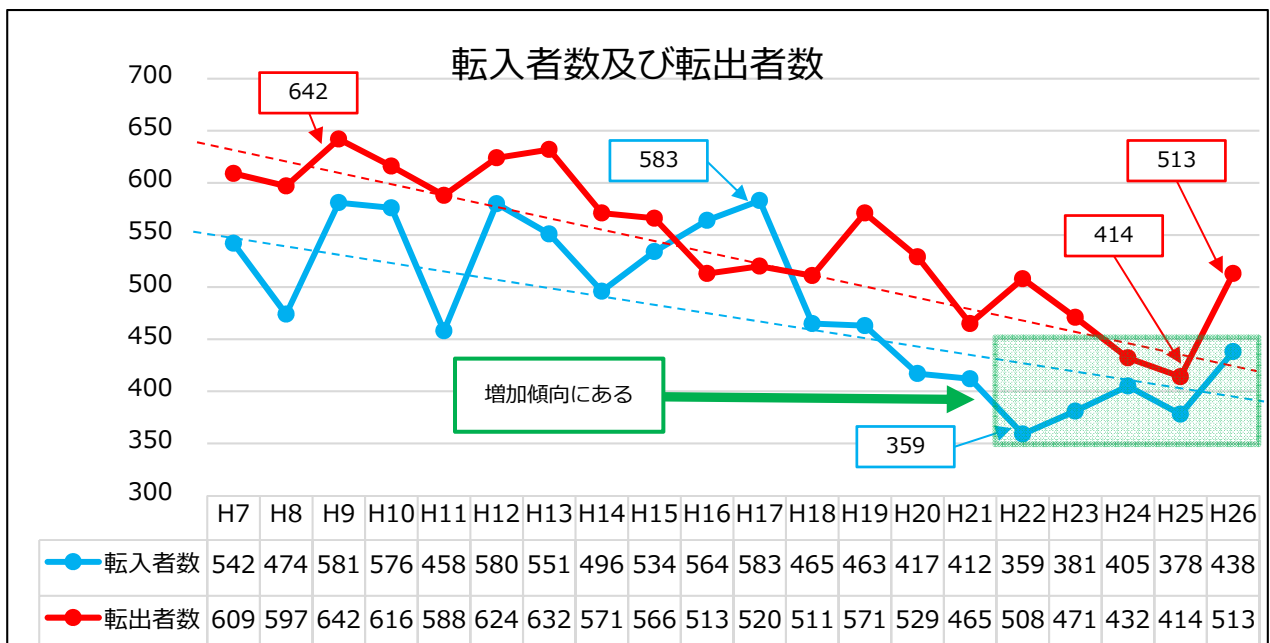
しかし世帯数は、人口減少が進んでいるにもかかわらず、平成8年から平成19年までは増加傾向にあり、大山町では平成8年頃から核家族化が進んだと推測される。

## ■ 出生者数及び死亡者数



全ての年度で死亡者数が出生者数を大きく上回っており、自然増減では、人口減少の時代が続いている。さらに平成19年以降は、死亡者数の増加と出生者数の減少により人口減少が急速に進み、平成21年に204人、平成25年に222人、平成26年に196人と200人を超える自然減となる年も発生している。

## ■ 転入者数及び転出者数

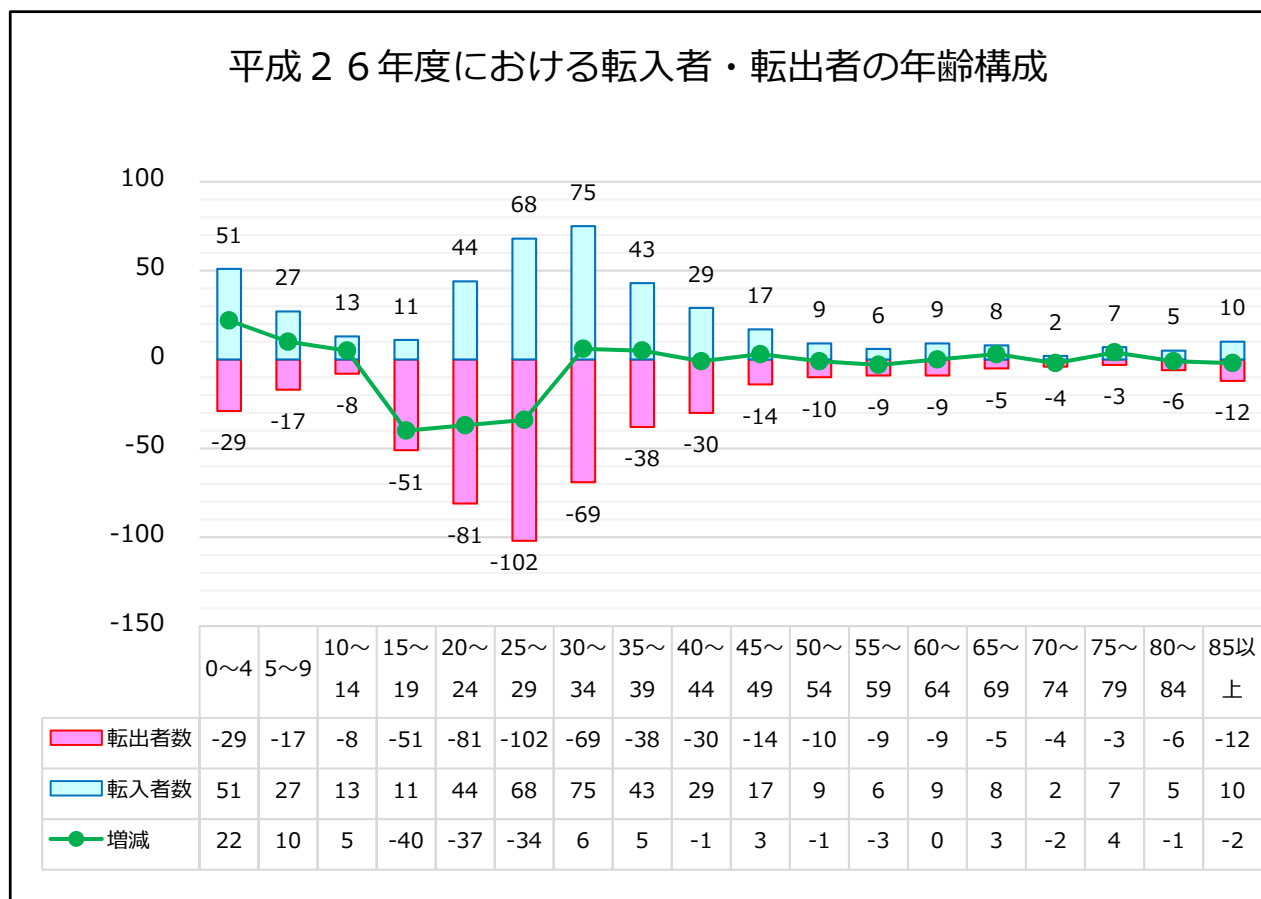
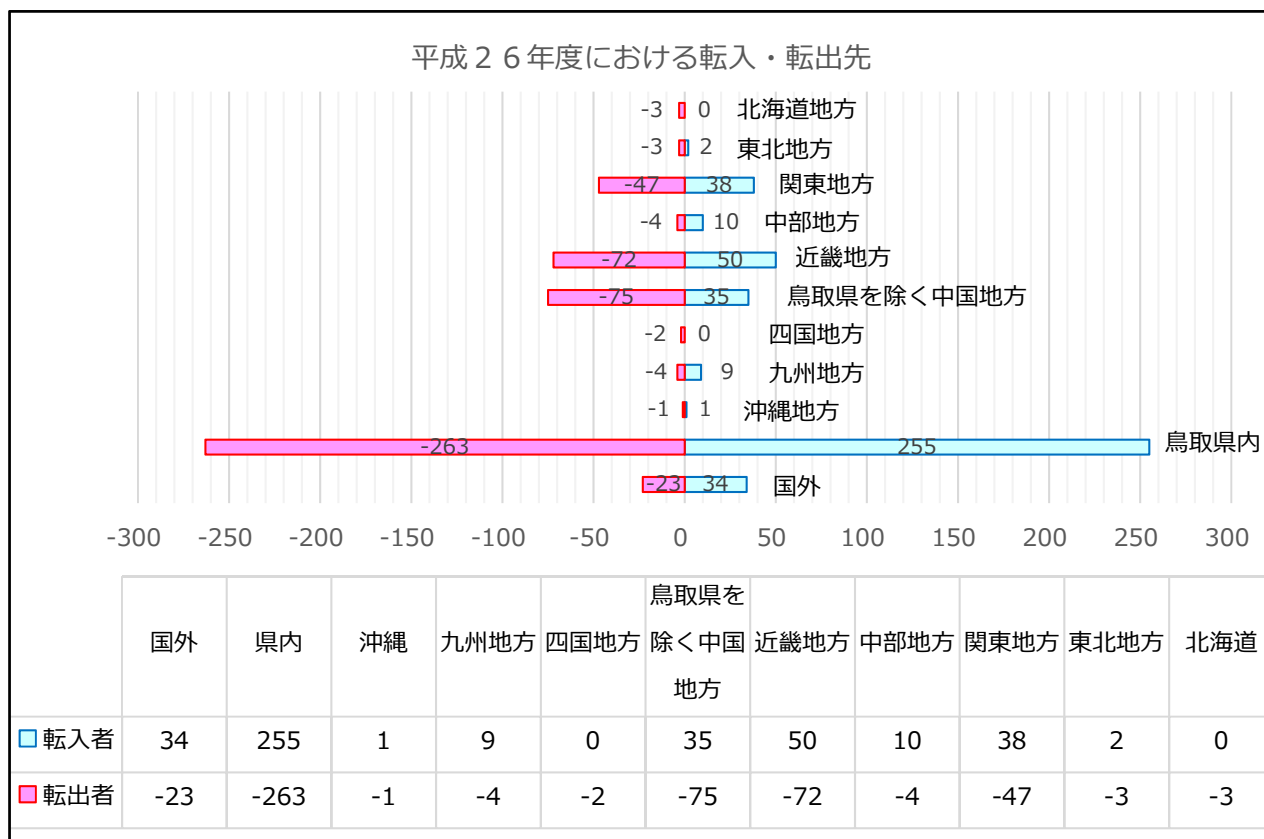


転入者数は、平成17年度583人をピークに平成22年度が359人と5年間で224人の減少となったが、平成22年度からは増加傾向に転じている。しかし、平成17年度以前のように500人前後で推移するわけではなく、転入者数は400人前後となっている。

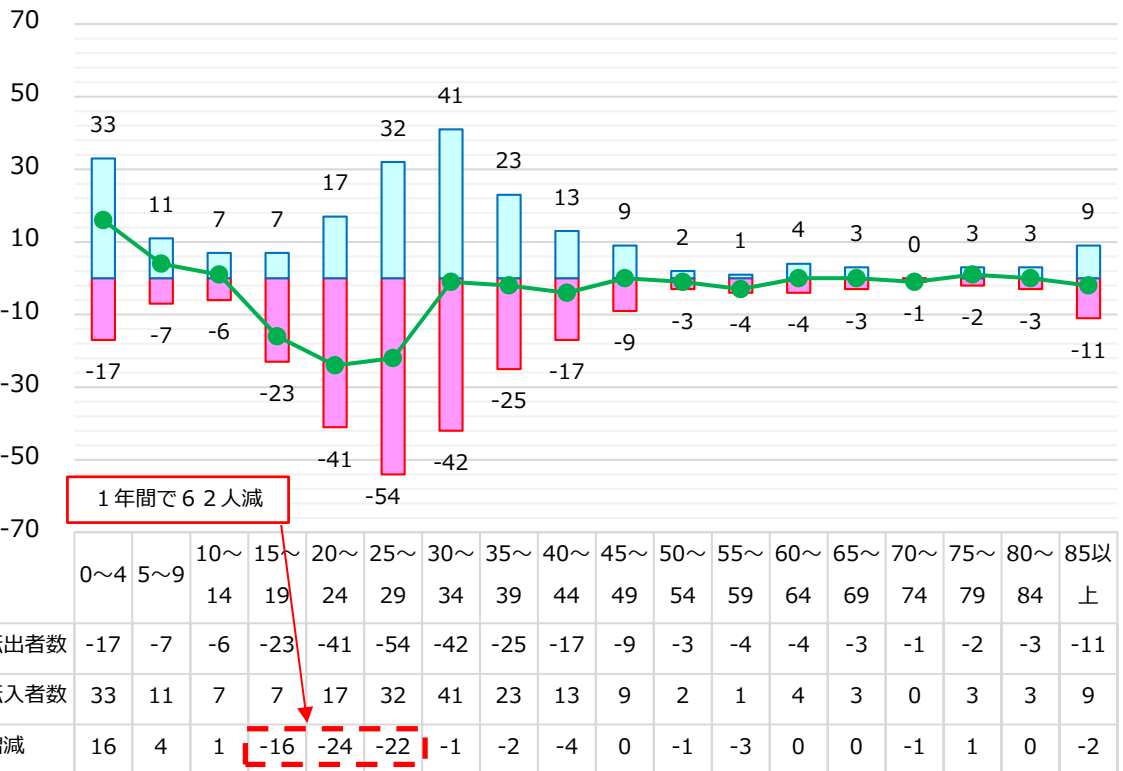
転出者数も相対的にみると減少の傾向にあるが、平成26年には513人の転出者があり、前年に比べて99人増加となった。

## ■ 平成26年度の転入・転出先状況（住民基本台帳データ）

下記グラフは、住民基本台帳データにより、平成26年度の転入・転出先を表したものである。転入・転出先とも県内移動が群を抜いており、転出では全体の52.9%、転入では58.8%を占めた。

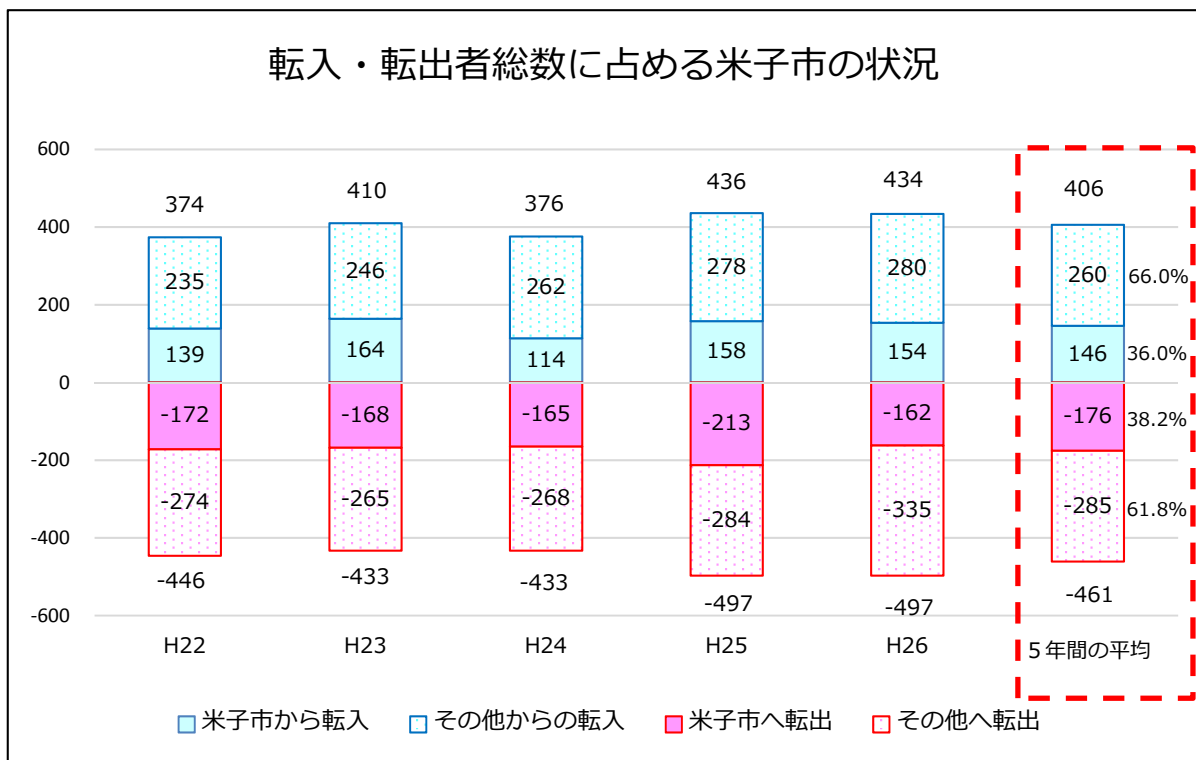


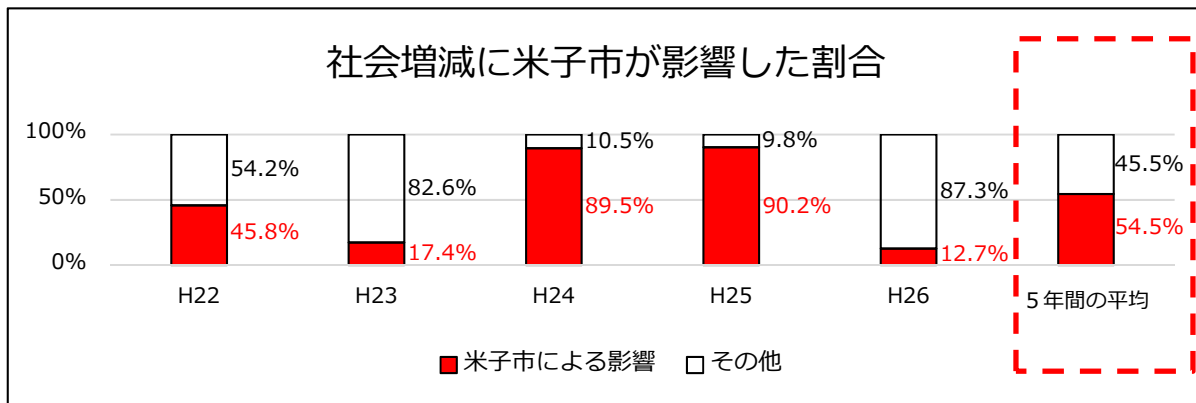
### 平成26年度 転入者・転出者の年齢構成（女性のみ）



上記グラフは、女性のみでの転入・転出者の年齢構成を表したものである。「15～19歳」が16人減、「20～24歳」が24人減、「25～29歳」が22人減で、「15～29歳」の女性が、1年間で62人も減少しているという結果となった。

### ■ 転入・転出者総数に占める米子市の状況（住民基本台帳データ）

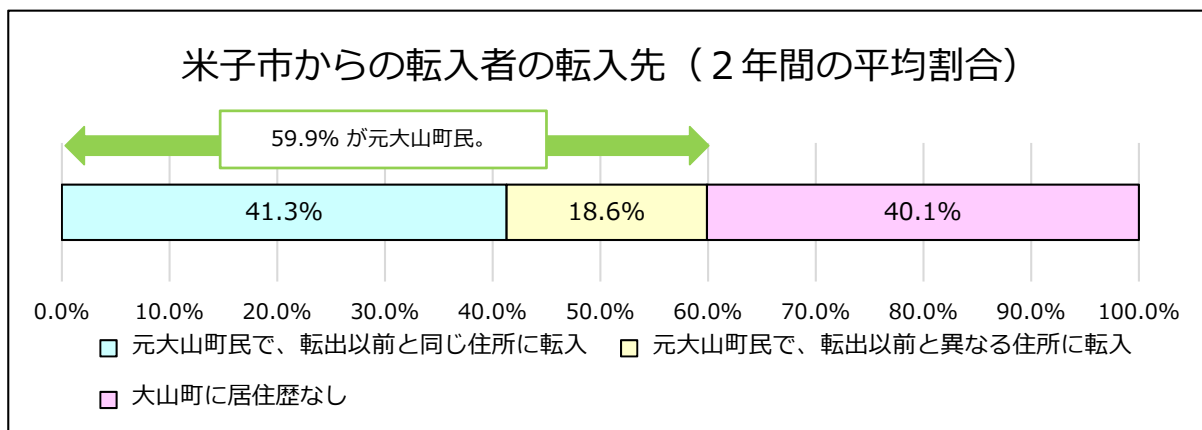




上記グラフは、平成22年度から平成26年度までの住民基本台帳による転入・転出者総数と米子市への転入・転出者の割合を表したグラフである。

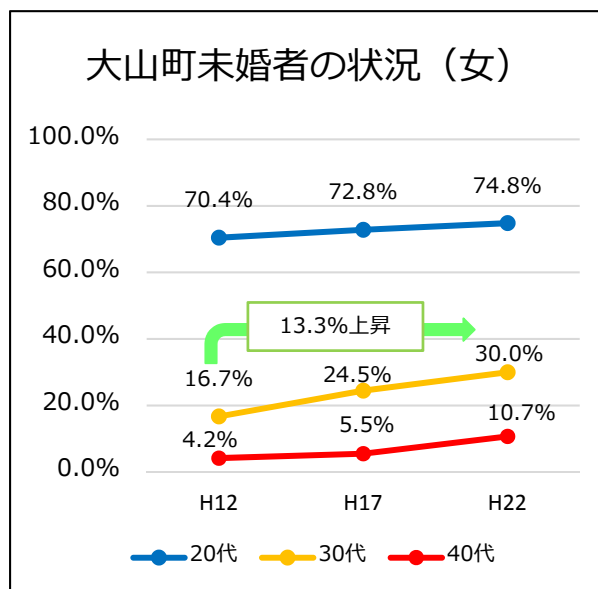
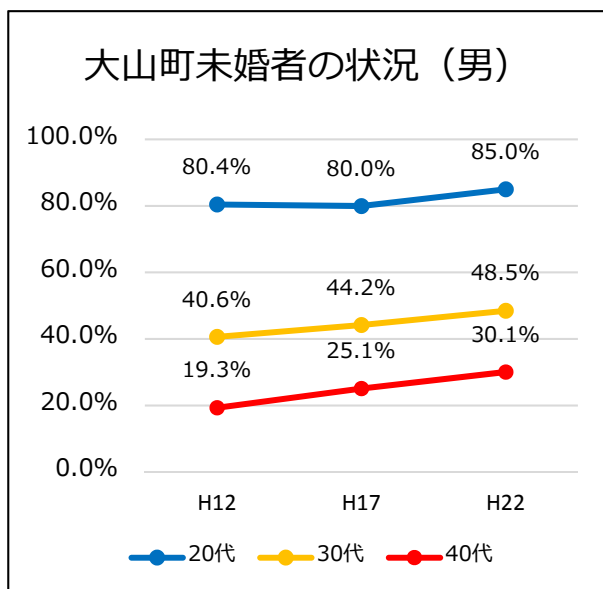
年度によりバラツキがあるものの、5年間の平均では、米子市が社会増減に影響を与えた割合は54.5%で5割を超えるという結果となった。

### ■ 米子市からの転入者の転入先（住民基本台帳データ）



上記グラフは、平成25・26年度の住民基本台帳による米子市からの転入者の転入先の2年間の平均割合を表したグラフである。米子市からの転入者の59.9%が元大山町民で、うち、41.3%が転出以前と同じ住所へ転入しているという状況であった。

### ■ 国勢調査による未婚者の状況



## 2. 大山町の将来人口推計

この人口推計は、国勢調査から得られた市町村別の男女5歳階級別人口を基準とし、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局から提供を受けた将来推計人口ファイルを活用して推計したものである。ただし、合計特殊出生率については、大山町の平成21年度から平成25年度の数値を平均した「1.33」で試算した。

なお、2010年以前の数値は、国勢調査の数値を使用している。

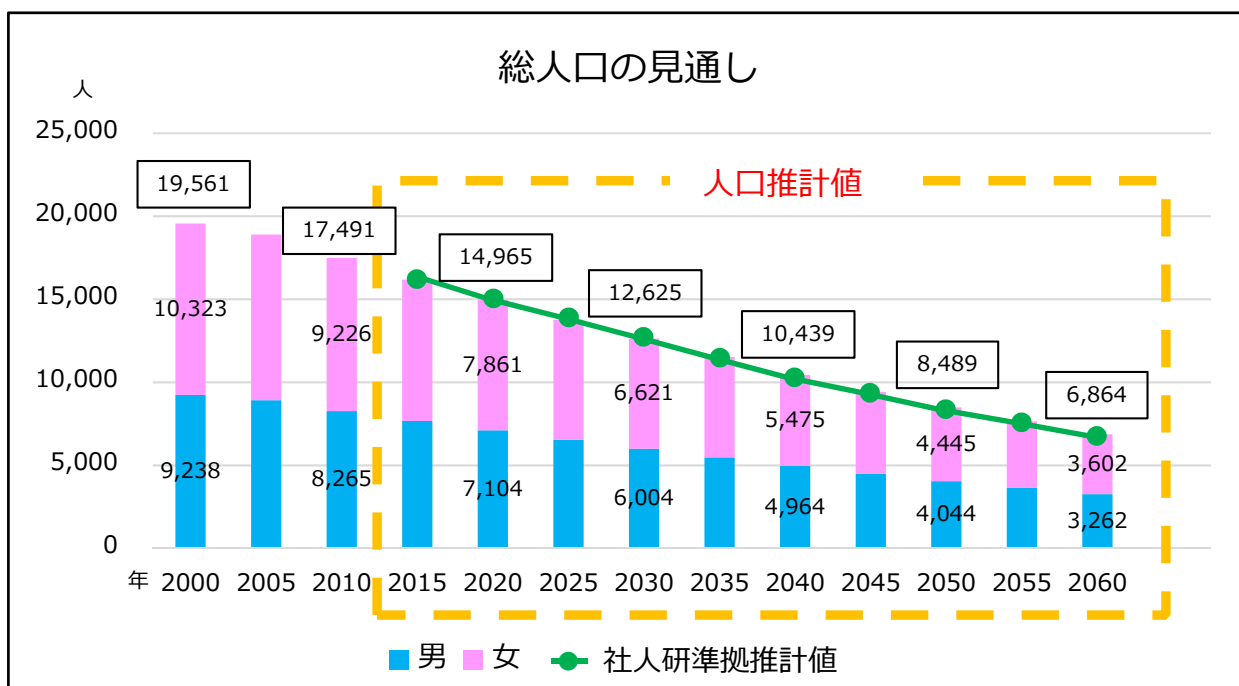
### ■ 大山町の合計特殊出生率

2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)
1.21	1.34	1.28	1.29	1.52

### ■ 総人口の見通し

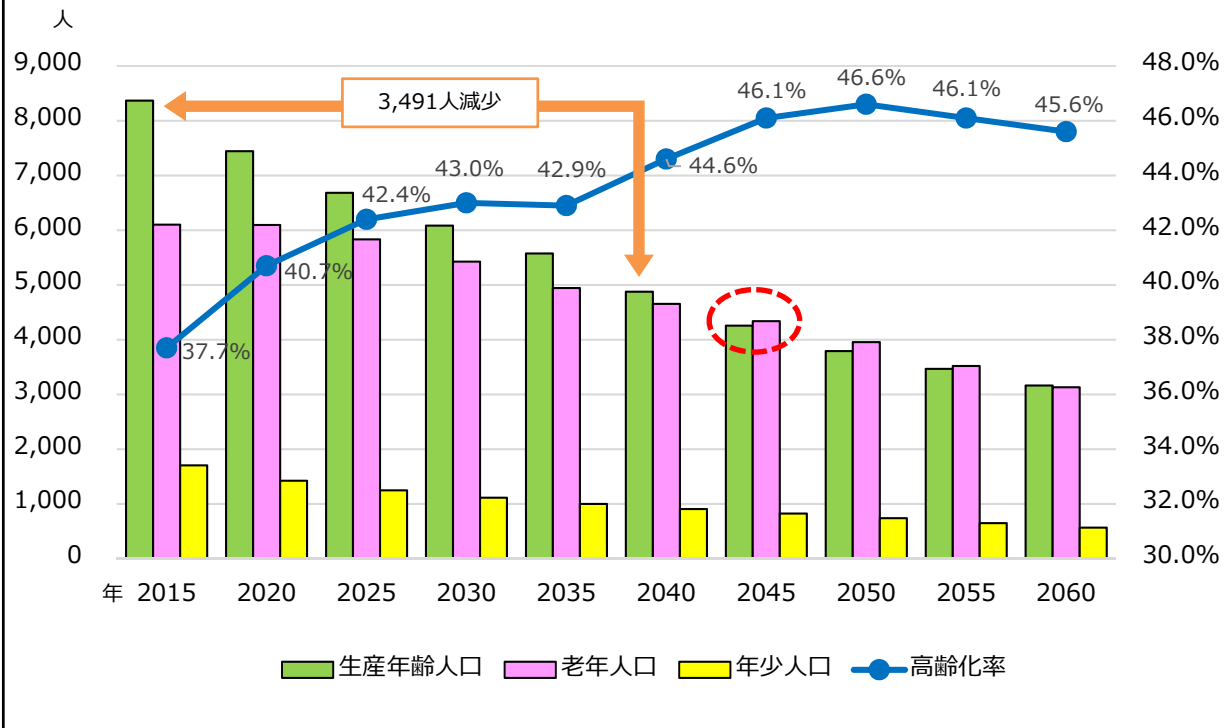
	2000	2005	2010
人口	19,561	18,897	17,491
男	9,238	8,920	8,265
女	10,323	9,977	9,226

人口推計値										
	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
人口	16,174	14,965	13,767	12,625	11,521	10,439	9,420	8,489	7,642	6,864
男	7,669	7,104	6,541	6,004	5,476	4,964	4,484	4,044	3,638	3,262
女	8,505	7,861	7,226	6,621	6,045	5,475	4,936	4,445	4,004	3,602



大山町の将来の人口は、現状のまま人口減少が進めば、2040年代に1万人を下回ると予測される。その後もさらに人口減少は進み、45年後の2060年には、現在より約1万人減少し、7千人を下回ると推計された。

年齢別階層別人口及び高齢化率の見通し



上記グラフは、生産年齢人口（15-64歳）、老年人口（65歳以上）、年少人口（0-14歳）及び高齢化率の見通しを表したものである。

生産年齢人口は、2040年までに約3,500人（41.7%）減少し、5,000人を下回ると予測される。その一方で、老年人口は、2040年までには約1,500人（23.7%）しか減少していない。年少人口については、約800人の減少だが、率にすると46.8%の減少となり、出生者数を今後いかに増やすかが問題となっている。

2040年後も各年齢別階層で減少は続くが、生産年齢人口の減少が激しく、老年人口の減少が緩やかなため、2045年には生産年齢人口（4,258人）より、老年人口（4,338人）が多くなると予測される。その後も2055年までは老年人口が年齢別階層人口で占める割合が一番高くなっている。

高齢化率は、2035年に老年人口の減少により一時的に若干下がるが、その後は生産年齢人口、年少人口の減少により2050年頃まで上昇を続け、その後下がってくるものと予測される。しかし、高齢化率は2045年以降は45%を超える高い数値となっている。

### ■ 大山町の将来人口推計のまとめ

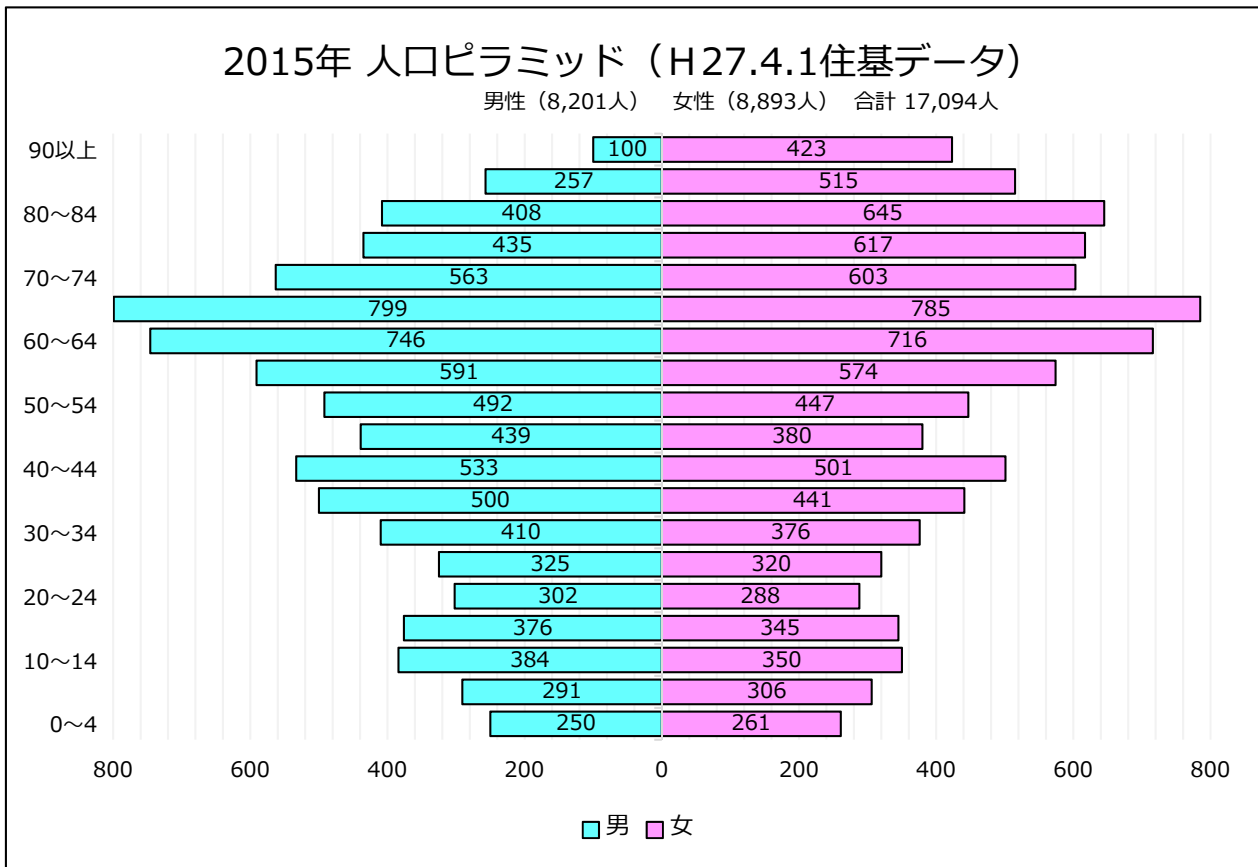
大山町の将来人口は、何か思い切った施策の展開がなければ人口増加に転じない。さらに、今後30年の間に、高齢化率が45%を超え、超高齢化社会になることが懸念されたため、それに対応するための施策を早めに行うことが重要である。

過去20年間の人口動態調査より分析を行った人口の社会増減では、転入者数と転出者数の人数の差が、減少していく傾向にあること、また若者の転入があることから、今後展開する施策次第で、社会増減による人口減少には歯止めをかけることは不可能ではない。

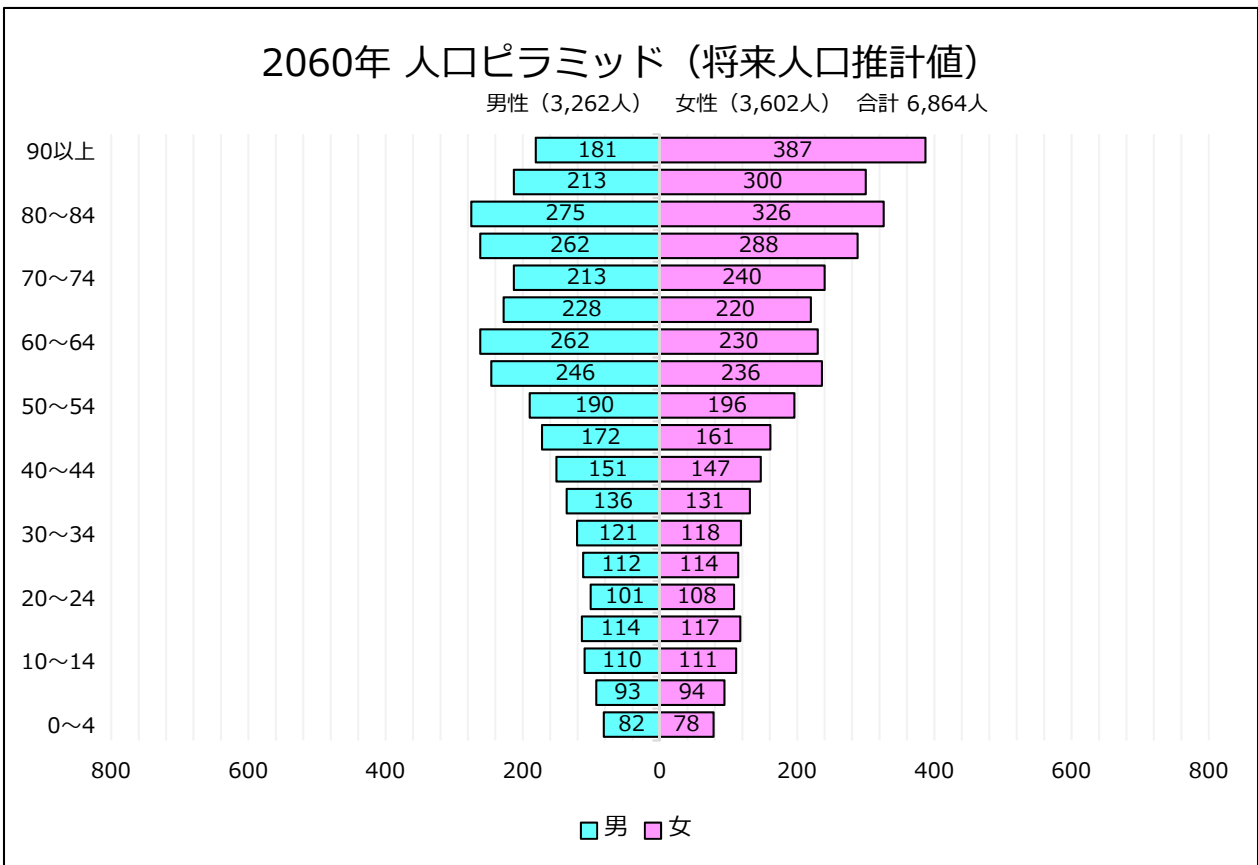
また、自然増減については、出生者数をいかに増やすかが課題であり、そのためにも若者、特に若い女性にとって、「魅力があるまち、しごとがあるまち、子育てをしやすいまち、安心安全なまち」などとなるような事業展開が必要である。



【参考】 2015年・2060年 人口ピラミッド



4 5 年後 (推計値)



### 3. 大山町の将来人口目標

全国的に人口減少社会を迎える中、大山町独自の人口動向分析、将来人口推計を行った結果、

- 2040年代に大山町の人口が1万人を下回る試算となった。
- 米子市への転出者が平成26年度1年間で162人あった。
- 「15～29歳」の女性が平成26年度1年間で62人減少した。
- 転入者数が平成22年度から増加傾向にあり、社会増減が減少傾向にある。

などという状況が判明した。

これらの結果をもとに、大山町では、将来人口目標を鳥取県が目標としている「合計特殊出生率1.95人」に加え、「転入転出による社会増減0」を目標とする。

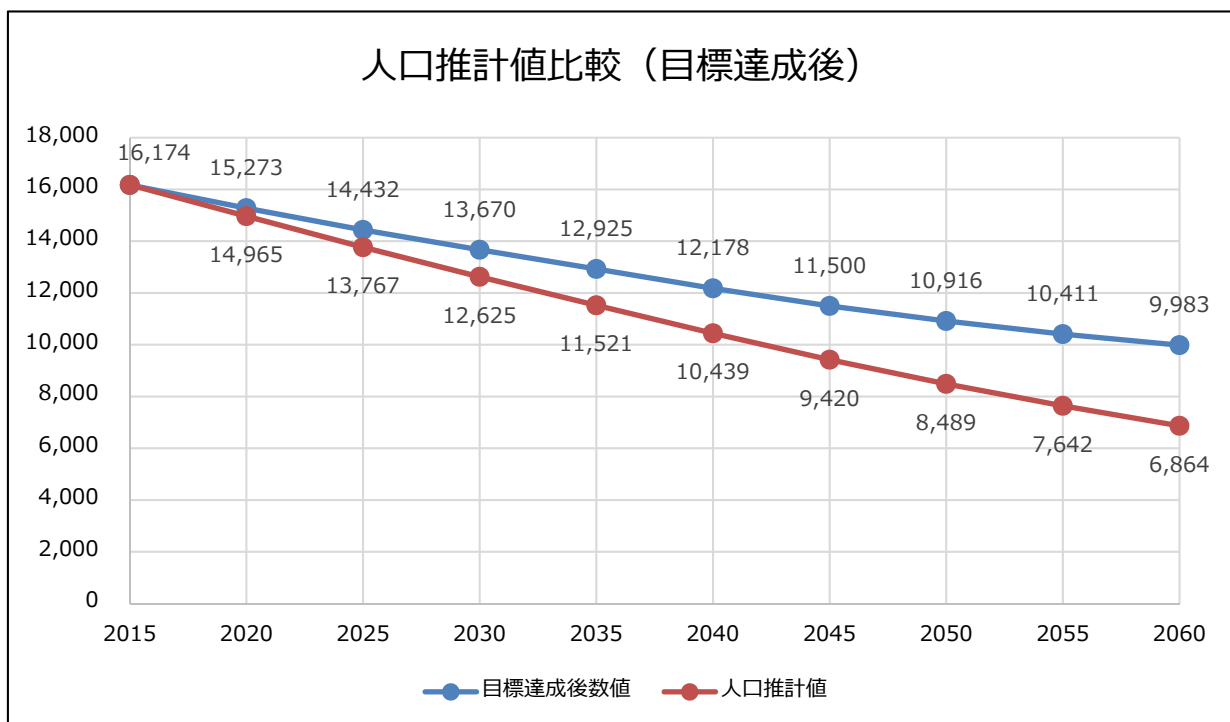
合計特殊出生率は、平成25年度は1.52であり、人口が少ないため年度により変動が大きいが、2030年（平成42年）までに1.95となることを目指す。

転入転出による社会増減では、平成26年度は63名の減であり、うち男性が9人減に対し、女性が54人減という状況であった。

社会増減についても2020年（平成32年）に0となることを目標として、定住促進施策、住宅施策、雇用対策、特に20～30歳代の若い女性の町外流出の抑制施策を実施し、魅力あるまちづくりを進めていく。

- 合計特殊出生率 1.95人。（鳥取県での目標値）
- 転入転出による社会増減「0」。

#### ■ 将来人口推計値

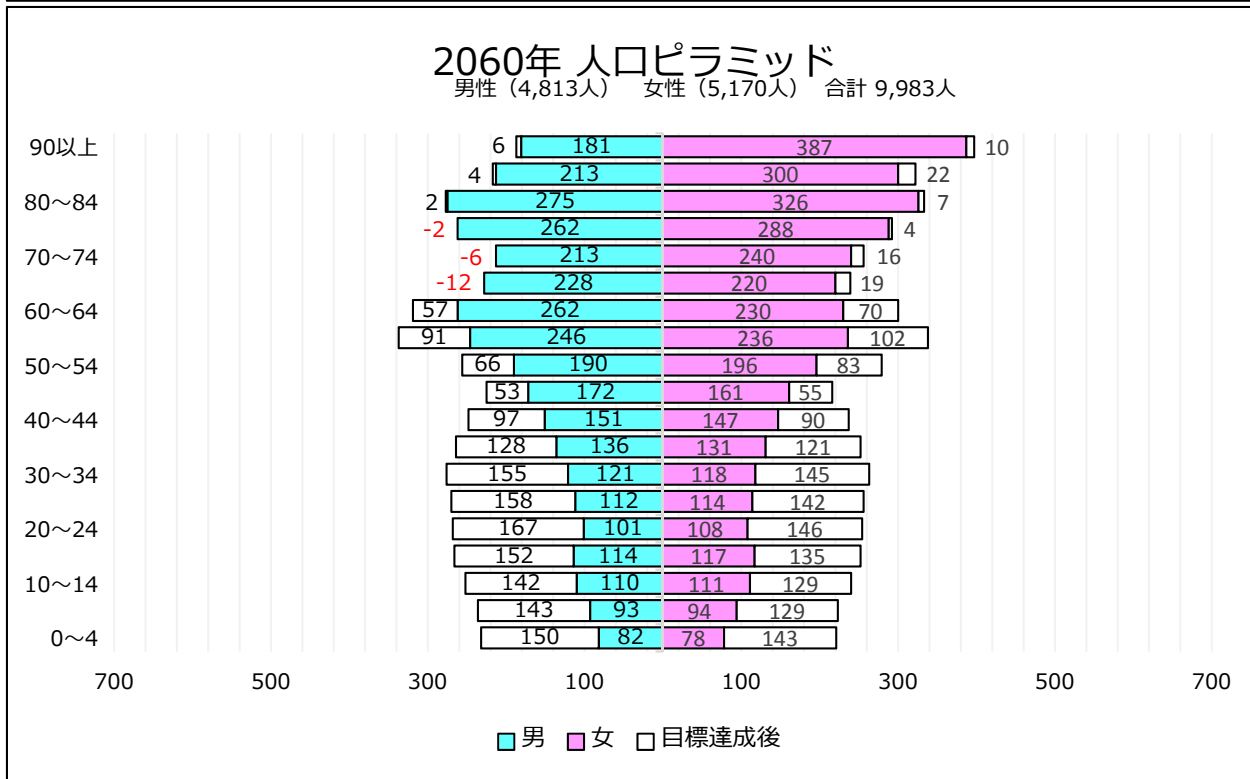
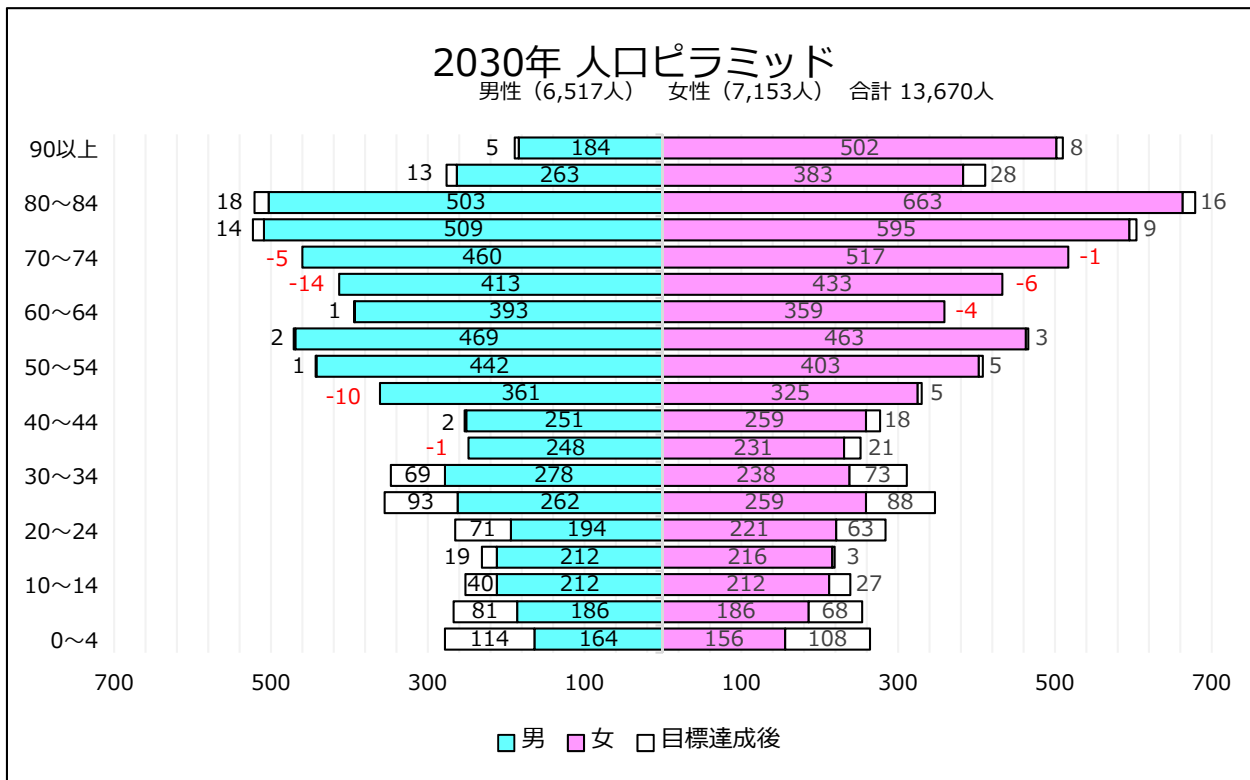


上記グラフは、将来推計人口ファイルを活用して推計した人口推計値と、2030年以降、合計特殊出生率を1.95%、社会増減0として推計した数値（目標達成後数値）を比較したものである。

## ■ 人口推計値比較ピラミッド

下記グラフは、将来推計人口ファイルを活用して推計した人口推計値と、2020年以降、将来人口目標が達成された場合を比較した2030年、2060年の人口ピラミッドである。

2060年は、2030年に比べ人口が減少しているものの、人口構成は改善されている。



## ■ 大山町の将来人口目標のまとめ

将来人口目標が達成されたとしても、大山町の人口は増加に転じるものではない。人口減少はやや穏やかになるものの、2060年には、1万人を下回ると推計された。

しかし、高齢化率は、2025年の40.9%をピークに徐々に低下していき、人口構成も年を経過していくことごとに改善されていくという結果となった。